

## CONTENTS

### 診療科紹介

[循環器センター]

高度先端医療で地域医療を支える

[腎センター]

日本で唯一の内科外科小児科からなる腎臓病総合医療センター  
～小児から高齢者まで、たんぱく尿から移植まで～

[リウマチ膠原病センター(膠原病科)]

関節リウマチ含めた膠原病診療への取り組み

[耳鼻咽喉科]

私たちが皆さんの「聴こえ」を良くします！

### TOPICS

看護部 / 理学療法士 / ボランティア(なのはな文庫)

Toho University Omori Medical Center  
Public Relations Magazine

VOL.  
003

# おかげさん



OKAGESAN



VOL. 003 2023 WINTER



“患者よし・地域よし・病院よし”の三方よしを目指し、  
地域の皆様に大森病院の旬な情報を年4回でお届けする広報誌「おかげさん」です。



東邦大学  
医療センター

大森病院

## 高度先端医療で 地域医療を支える



循環器センター内科 スタッフ

## 循

循環器センター内科では、全国に先駆けて高度先端医療治療技術をいち早く導入し、臨床の場で数多く実施しています。例えば、心血管インターベンション部では、虚血性心疾患の治療として、通常の冠動脈ステント留置だけでなく、ロータブレードやデバルキングデバイス (Diamondback) などでも使用しています。また、弁膜症で開胸が困難な患者さんにおいては、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術 (TAVI)、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁接合不全修復術 (MitraClip) を積極的に行っていきます。不整脈センターでは、心房細動の治療として、高周波アブレーションだけでなくクライオアブレーションなども積極的に行っており、抗凝固薬が服用できない患者さんに対しては、脳塞栓予防のための左心耳閉鎖デバイス (Watchman) を行っています。慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対しては、バルーン肺動脈形成術 (BPA) も実施しています。



## 循環器センター 外科

心臓血管外科 カンファレンス風景

の分離により現在の心臓血管外科学講座に至ります。

大森病院における診療部門として、循環器センター心臓血管外科、大動脈センターおよび小児医療センター小児心臓血管外科を担っており、循環器疾患全ての外科治療に対応しています。成人心臓手術は循環器内科とハートチームを形成し、心拍動下冠動脈バイパス術、弁形成術、右開胸による低侵襲手術を積極的に行い、経カテーテルの大動脈弁植え込み術も行います。小児心臓手術は、新生児から成人先天性心疾患まで幅広い疾患群に対し、個々の病態を考慮したオーダーメイド治療を行います。血管手術は、外科治療と血管内治療から最適な治療法を選択し、治療しています。

## 1

959年6月東邦大学外科学第一講座に心臓血管外科が創設され、1987年胸部心臓血管外科学教室が分離独立、2002年呼吸器外科と

初診外来は月曜日～土曜日の午前に行い、また緊急対応が必要な場合はホットライン (03-5763-6507) に対応しています。

# 東

邦大学医療センター大森病院の腎センターは「内科」「外科」「小児科」のエキスパートがユニットを構成し、尿蛋白の診断から治療、血液、腹膜透析、腎移植までの生涯医療を日本で唯一提供している単一の医学部講座です。

## 腎臓学とは……

「腎臓学」とは、1980年に東邦大学に設立された『腎臓学研究室』に由来します。腎不全医療の1つに人工透析があり、しかし、透析だけでは長期の健康は保てません。腎移植は患者さんのQOLを大きく向上させることができます。

## 日本で唯一の内科外科小児科 からなる腎臓病総合医療センター

～小児から高齢者まで、

たんぱく尿から移植まで～



## 腎センター

東邦大学医療センター大森病院 副院長  
教授 酒井 謙 さかいけん

1986年には、小児腎移植の長谷川昭教授がリーダーとなり、小児から高齢者までの生涯医療を提供できるようになりました。現在、当科腎臓移植の数は国内で4番に数えられ、小児の腎移植は第1位であります。

## 高齢化社会の到来

人工透析をしている患者さんは、高齢者を中心に34万人もいます。透析に至らない事、それは移植患者も同様です。近年はSGLT2阻害薬、ARNI、MRAというCKD治療の創薬も生まれ、免疫抑制薬も進歩しました。高齢化社会で増加するCKDは、大学病院だけでは到底診きれません。

## 腎センターの共通目標

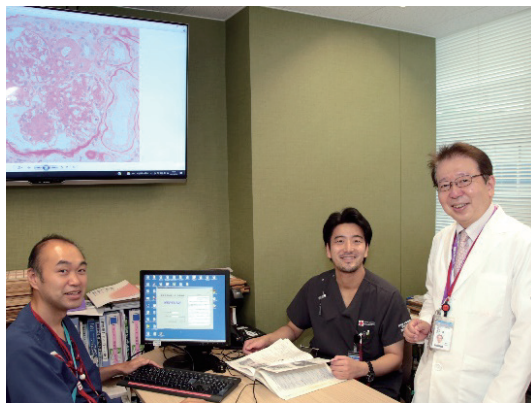
腎センターの共通研究目標は、腎炎・ネフローゼの重症化予防と腎移植における障害の克服であり、CKD加療を広い側面で支えます。

透析を続けた場合、成長が阻害される小児では、腎移植をし、健康やかに成長してほしいと願います。ここでは外科的な側面も大変重要です。外科医がいないと血液

透析も腹膜透析も腎移植もすることができません。平成元年に日本で初めて血液型不適合移植を成功させた4大学の一つが当科です。今後は腎移植における免疫学的なリスクをどのように乗り越えるかが課題です。

## 最後に

腎臓というと、浮腫・たんぱく尿・透析というイメージです。しかし、新しい創薬が登場し、CKDの重症化予防に期待がもてる時代になりました。「安定化したら逆紹介」をモットーにとしています。  
(CKD…慢性腎臓病)





## リウマチ膠原病センター (膠原病科)

教授 南木 敏宏 なんき としひろ

# 関節リウマチ含めた 膠原病診療への取り組み

## 膠

原病科は2004年に新規開設され膠原病診療を始めました。

2005年に整形外科の先生と共にリウマチ膠原病センターを足しました。これまで当科で診療している患者さんは非常に増えてきています ([https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/kogen/patient/medical\\_record.html](https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/kogen/patient/medical_record.html))。2021年度には外来での年間診

療延患者数は20,536人、年間初診患者数は498人に上ります。入院では年間退院患者数が324人と、都内でも大きな膠原病診療センターの一つになっています。当科独自の集計では、定期的に診療している患者数は約2,700人。その内関節リウマチが1,300人。全身性エリテマトーデス270人、強皮症150人、多発性筋炎・皮膚筋炎

100人、血管炎120人、シェーグレン症候群200人。また高齢者に発症するリウマチ性多発筋痛症も160人と高齢化社会を反映して患者数が増えています。またこの間に膠原病治療も大きく進歩しています。関節リウマチに対しては2003年に生物学的製剤が初めて投与されるようになり、今では8剤の生物学的製剤と5剤のJAK阻害薬が分子標的薬として用いられます。2005年には当科の関節リウマチ患者さんの寛解割合は20%、低疾患活動性まで合わせ40%程度でしたが、2021年には寛解60%、低疾患活動性まで80%と、患者さんの疾患コントロールは飛躍的に改善しています。更に全身性エリテマトーデス、強皮症、血管炎患者にも生物学的製剤が治療としても用いられる様になりました。新規に使用出来るようになった免疫抑制薬や、膠原病に伴う間質性肺炎に抗線維化薬の投与も可能となりました。関節リウマチ以外の膠原病治療もまた進展しています。

当科ではリウマチ専門医7名、内科専門医6名が中心となり、日々の診療に当たっています。生

物学的製剤や免疫抑制薬等最新の治療を取り入れながら、またその安全性にも留意しております。また整形外科の先生との連携により手術が必要な患者さんにも迅速に対応しています。

受診に関しましては、病院HP、地域医療支援センターにてご確認の上、お願いいたします。



膠原病科スタッフ

# 私たちが皆さんの「聴こえ」を良くします！

## 当

院の耳外来には、中耳炎  
外来、補聴器外来、小児  
難聴外来があり、皆さんの大切な  
「聴こえ」を改善するために連携  
して診療をしています。

## 中

耳炎外来では、主に手術  
の対象となる症例を扱  
います。お子さんから高齢の方ま  
で、様々な耳疾患の診断・治療・  
手術適応の決定、そして手術およ  
び手術後のフォローアップを一貫  
して行っています。滲出性中耳炎

## 補

聴器外来では、主にご高  
齢の方に対して、補聴器  
を装用するための検査、診察をし  
て、補聴器の選択、調整を行いま  
す。皆さんが快適に、そして有効



耳手術

たちが言葉を育てやすい環境をつ  
くるお手伝いをしています。  
これらの中耳炎外来、補聴器外  
来、小児難聴外来は日々連携して、  
患者様それぞれに何が最適なのか  
を判断し、診療を行っています。  
補聴器外来、小児難聴外来で診察  
していた方が手術の適応となれば  
中耳炎外来へ、また中耳炎外来で  
診察していた方が補聴器の適応と  
なれば補聴器外来へ、など皆さん  
の「聴こえ」が最大限に良くなる  
よう、私たちが責任を持って診療  
いたします。どうぞお気軽にご相  
談ください。



## 耳鼻咽喉科

助教 梶原理子 かじわら りこ

## 小

児難聴外来では、医師、言  
語聴覚士、認定補聴器技能  
者のチームで、「一緒に成長を見  
守る」あたたかい雰囲気診療を  
行っています。新生児聴覚スクリー  
ニングの結果がリファードだったお  
子さん、乳幼児健診で聴こえの確  
認を勧められたお子さん、聴こえ  
や言葉の発音が気になるお子さん  
の聴力を評価して、必要時にはス  
ムーズに補聴を開始できるように  
しています。また、療育・教育施設  
と連携して、聞こえにくい子ども



視覚強化式聴力検査

## 看護部



SCU 師長

松川 陽子

脳卒中看護認定看護師

粟津 智恵 新田 幸徳

写真左から 粟津、新田、松川

# 脳卒中ケアユニット (Stroke Care Unit) の開設

## 脳

卒中は脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など、脳の血管がつまったり、破れたりすることで様々な症状を引き起こす疾患です。年間約10万人が亡くなり、要介護状態となる原因疾患のひとつです。

当院は、2022年10月に脳卒中ケアユニット Stroke Care Unit (以下、SCU) を開設しました。SCUにおける治療効果として、専門性の高い治療・看護・リハビリテーションを同時にかつ集中的に受けることで、脳卒中の悪化や再発、肺炎などの感染症や死亡率が有意に低下し、在宅復帰率の上昇や在院日数の短縮などの効果があると報告されています。

SCUでは医師・看護師・リハビリテーション療法士・管理栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカーなどの多職種でチームを組み、入院時から退院後の生活を見据えて診療に携わっています。私たち脳

卒中看護認定看護師は、患者さん、ご家族への看護実践の他、指導・相談の役割を担っています。中でも急激な病状悪化を来す恐れがある脳卒中においては状態変化のサインをいち早くキャッチし、早期治療へつなげていけるように取り組んでいます。また、脳卒中の患者さんは麻痺や失語症、記憶障害や集中力の低下などの高次脳機能障害により日常生活に支障をきたすことが少なくありません。そのため、高次脳機能障害のみならず、残存機能（現有機能）を評価し、活動性の維持・促進のための早期リハビリテーション、セルフケア能力を高めるための計画的な回復支援を行っています。さらに、再発予防において高血圧や糖尿病などの危険因子のコントロールが非常に重要です。そのため、入院中から患者さんご家族が、生活習慣を振り返り、見直しそれぞれの暮らしに合った健康管理行動につ

なげることができるよう支援しています。

SCUスタッフ一丸となり、脳卒中の患者さん、ご家族の皆様安心して安全な脳卒中治療・看護・リハビリテーションを提供してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。





## リハビリテーション科

# リハビリテーション医療は チーム医療である

リハビリテーション治療は、患者さんやご家族を中心として多くの専門職がチームを組んで医療にあたります。多職種による評価、

目標設定、疾病管理、安全管理、リハビリテーション治療計画に基づき、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、義肢装具士、管理栄養士などが

それぞれの専門性を発揮し、できるかぎり速やかに患者さんの最大の能力を引き出すべく診療にあたります。

### スタッフはすべて

### 国家資格保有者である。

当科に所属するのは、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士です。いずれもリハビリテーション医療の実践に欠かせない専門職で国家資格です。リハビリテーション治療は医師の診察に基づき、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が患者さんに対して各療

法を行います。理学療法は、外傷や疾病などで身体に障害のある人や障害の発症が予測される人に対して、基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法（温熱、電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援します。作業療法は、体や精神に障害のある人がその心身機能を回復し、日常生活・社会生活に復帰できるように、食事、歯みがきなど日常生活の動作、家事、芸術活動、遊び、スポーツといった生活の中における作業や動作などを用いて訓練、指導、援助を行います。言語聴覚療法は、ことばによるコミュニケーションや嚥下（えんげ）に困難を抱える人に対して、問題の程度、発生のメカニズムを評価しその結果に基づき訓練、指導などを行います。

### 急性期医療に特化している。

特定機能病院、3次救急病院である当院の療法士は、各診療科の高度な治療と併行して、急性期（病気のなり始めや、手術をしたばかり

りで全身の管理が必要な時期）の患者さんのリハビリテーション治療を行っています。当院の療法士は、呼吸療法認定士、心臓リハビリテーション指導士、専門理学療法士、認定理学療法士、がんリハビリテーション研修修了療法士、リンパ浮腫療法士の資格を保持しています。

### 入院生活で安心して

### 病気の治療に専念できる。

当院に入院中で、リハビリテーション治療を必要とされる患者さんすべてを対象としています。病気がよって損なわれた機能を一日も早く回復し、在宅および社会復帰できるよう、当科の診療スタッフが一丸となり、患者さんをお支え致します。



# ボランティアの活動紹介

## 移動

図書「なのはな文庫」は平成21年から活動を開始し、今年で13年目になります。

活動を始めるきっかけは、「からだのとしよしつ」を利用している患者さんの「医学書ではない普通の本が読みたい」という声でした。願いを叶えたいという思いから、病院側に相談し活動が始まりました。

外来待合室、各病棟のデイルームに本棚を設置し、一般書を並べました。一般書は大田区内の図書館から頂いたりサイクル本、患者さん・職員からの寄贈本を活用しています。

毎週火曜日の午後、メンバー6名で本の入れ替え・清掃・整理を

「なのはな文庫」ボランティアグループ同



おこなっています。各部署を回った際、本の入れ替えを心待ちにしている患者さんや、時には「ありがとう」と声をかけてくださる患者さんがいます。とても励まされています。入院患者さんには日々の時間に安らぎを、外来患者さんには待ち時間を少しでもゆっくり過ごしていただけたらと願いながら、今後も活動を継続していきたいと思っております。皆様のご自宅に読み終えた本がございましたら、寄贈していただけます。ありがとうございました。



## INFORMATION

東邦大学医療センター大森病院

Omori Ota Tokyo



<https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>

### 初診受付時間

月曜日～土曜日（下記休診日を除く）  
8:30～11:00（一部を除く）

### 休診日

第3土曜日・日曜日・祝日・  
年末年始（12月29日～1月3日）・  
創立記念日（6月10日）

### 臨時休診日

1月7日（土）

### 臨時診療日

1月9日（月・祝）

平日診療体制といたしますが、診療予約のない方は「休日加算」を適用いたします

## 編集後記

新年、あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。広報紙「おかげさん」もvol.3を迎えました。昨年styleを一新し当院の違った一面を少しでもお届けできればと思っています。また、紙面のみでは我々の医療や診療に対する思い、人柄など、伝えきれない部分があるのではないかとこの声が院内でもありました。丁度この号が発行される頃には、「大森病院YouTubeチャンネル」（予定）を開設していることと思います。今後は、紙面のみではなくSNSなどを利用して、動画でも当院で働いているスタッフの思いや人柄、医療技術なども紹介していきたいと考えております。今回の動画撮影は第一弾として、早朝のドローン撮影も行い本格的に取り組みました。短編ものになっておりますので、お手すきの際に一度ご視聴頂けましたら幸いです。当院スタッフの患者さんへの思いが地域の皆様へ伝わればと思っております。（F・K）

